

はあもにい

発行 2003年 1月

NEWS LETTER Vol. 8

発行元：特定非営利活動法人セルフ・サポート研究所

一薬物依存症者をもつ家族の会【はあもにい】一

〒 136-0071 東京都江東区亀戸 3-61-22

Tel 03-3683-3231

E-mail: hamo21@eos.ocn.ne.jp

URL <http://www10.ocn.ne.jp/~hamoni/>



か
ま
い

道のうた

森川
りう

これから通る

今日の道新しい道

通りなおしの出来ぬ道

苦しいことから逃げていると

楽しいことから遠ざかる

感謝の心

みんなあるはず出せるはず

勝つ人は強いが

ゆずる人はさらに強い

人の世は、山坂の多い旅の道

中略

豊かだから与えるのではない
与えるから豊かになる

後略

空港からそんなに遠くなく、閑静な高台にGAIAはあった。玄関の横の網戸から、文さんの奥さんが台所に立っていて、声をかけてくれた時、自分のふるさとに帰ったようなあたたかい気持ちになった。まるで、ほんとの家族のような…。そんな錯覚は、しばらく続いた。

玄関には、特大の大きな履物が玄関いっばいに並んで、昔、私が田舎の実家に帰った時、兄弟姉妹がいっばいの我が家の玄関のようだった。

フローリングの風通しの良いリビング、柱の向こうで、見覚えのある若者が、入っていくお母さんたちを見ては、誰々のお袋だ」なんて、チェックし



GAIAを訪ねて

11月30日～12月2日、念願の沖縄GAIA訪問が、実現しました。合同面談や観光を含んで。加藤先生を始め、第一陣総勢18人のちょっとした小民族移動になりました。

それぞれの思いを乗せて旅立ち、そして帰京。その感想を寄せていただきました。

ながらニコニコしている。どこかでこんな光景あったような、そうそう、小学校の授業参観だったかな。

リビングに車座になって、合同ミーティング、別室での合同面談というプログラム。弁護士森野先生も前日から沖縄入りして、参加されていた。

GAIAの生活をビデオに収録したものを、少し見せてもらった。

ジャングルのようなところで、ターザンもどきの時を過ごしていたり、サーフィン、ボディボード、日常の生活など生き生きとした表情のGAIAのメンバーたち、いい顔しているな。

恵まれた環境を、わが事のようにうれしく思え、沖縄の存在が大きくなった。

本人が登場しない親として、ちょっぴり寂しい気もするが、それぞれの回復のパターンがあるから、まあ今回は、観光に専念しましょう。計画を立ててもらって、のんびり過ごさせていただき、ありがとございました。

帰路の機内では、息子一人残してきた不安がちょっぴりよぎった。 S・T

GATA 訪問記

何度かお誘い頂き、結局、色々な気持ちを抱えたまま、沖縄に行ったこともない、行ってみようか、という事にしたわけです。

初めて行った沖縄は、空の色も海の色も、家並みも、すべてが明るく解放的で、新鮮な印象が今も心に残っています。おそらくは、島で暮らす人々も、ゆったりと明るく毎日を過ごしているのだろうな、と勝手な想像を許してくれるような島の言葉も印象的でした。

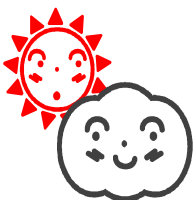
その一方で、戦争の傷跡を残す記念碑や米軍基地の鉄柵も沖縄の現実を示すもので、私の理解を超えた体験や感情がたぐさたあるのだらうと、何か深く心に向かっついでるものを感じました。

実は、今回のGATA訪問のお誘いを頂いた時には、色々な感情と考えが頭の中で絡み合っ、二日は参加しないことどう連絡してました。

GATAで生活している子供との再会は、現実はずつ甘くはないぞ、ということをお願い知らされる事態でありましたが、今、訪問からしばらくの時を経て思うことは、短い日間ではありましたが、本当に行つて良かったと思つています。

何か、うまく言えないのですが沖縄の明と暗が、私と子供の関係の明と暗に重なつて感じられます。

いずれにせよ、現実があるがままに受け止めて、前向きに考えていく方が結局は、自分も楽になるというのではなかつたかと思われまふ。



あたりのまえの事でしようが、晴れの日もあれば、嵐の日もあり、楽しい時もあれば辛い時もある中で、今日二日を楽しくするもしないも、すべて自分次第というふうに思ひ至ります。

そして、それは何も自分ひとりで続けていく事ではなく、個々の事情や状況は様々に異なつていても、理解しあえる仲間とお互いに支えあつてやつていくことなのだらうと、今回沖縄に皆様と一緒に行くつて強く感じました。

今回は、限られた時間ではありましたが、普段、仕事等の関係で時間がなくてお話できなかった方々とお会いできた事は本当に私にとって有難いことでした。

思ひや悩みは、果てしがたいわけですが、今後ともいつかまたぜひぜひお願ひ致します。



息子に思いを馳せし...

暖かい空港に降りて、何やら故郷に帰ってきた気分になっていました。

何回か来た沖縄は、今回少し違う感覚です。息子はいない。でも沖縄は大好き！

GAAへ行っていらっしゃる方たちの母子の話す姿を羨ましく見っていました。もし、ここに息子が居たなら、私は皆と同じように楽しそうに話ができているだろうかと思いつつ眺めていました。

高台の景色の良い所で暖かい気候に恵まれ、心が解放される気がします。

6月、北九州へ行くという息子の噂を聞いて、心穏やかでいられなくなる自分は、余り変わっていないなと感じました。何があっても北九州なのさ」と聞きかかった。でも全て、彼のやる事

を見守ってしようと思い決めながらも、次々と不安が持ち上がる自分の心をセーブしながらの毎日でした。

応援します」という短い手紙を出して、ぼい知らたらいふがあるのじ、知ってどうするの」と自問しながらじつとくえて2ヶ月、息子から電話が来た。『保証人なつてくれ』とのこと、短い取りで電話を切った後、彼の元氣そうな声で、ホッとしている自分がいました。

いつからこんなにギクシヤクしてしまつたのか、でもいつかやり直しができるだろうかと楽天的に考えることにしていました。愛着を持って住んでいた沖縄を離れることは、彼にとって辛かったかもしれない、そして、新し

い土地への不安を抱いての出発はどんなだったのだろうか、息子への思いを馳せていました。

皆と、わいわいしているうちに、すっかり心は旅気分だけになっていました。

二年前、沖縄に行った時、沖縄にいるのに『聞いたくない』と言われた時とは違って、もしかしたらどこかで逢えるかも、などと囚われることもなくて、安堵感がありました。
楽しい2泊3日の旅、また今年も行きたいな。

K・H



母と息子と沖縄と

セルフ・サポート研究所に通うようになり、『沖縄ダルク』を知り、どんな所なんだらうと、特別な存在として創造し続けていた沖縄。

去年の六月「G A I A」が開設されてからは、ますますイメージは膨らみ続けていた。そんな中、沖縄行きに参加できることにワクワクしていた。

当日は、天気にも恵まれた。空港に降り立つと、あまりの暖かさでランの花があちこちに置かれており、南国に來たんだなあと実感しました。そして、「G A I A」は、静かな丘の途中にあり、ああ、こういう所にあるんだ」と納得しました。

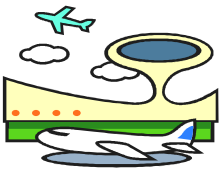
ミーティングの間中、私は息子がここにいたら何を話し、どういう顔をするたろうか、と頭のはしっこですこっと考えていました。

ミーティングの後、ここに居る息子さんと母親が向かい合い、近況を話し合っている姿があちこちで見られ、母親の愛情あふれる様子に、私は羨ましかったです。いつか、うちの息子もこのように集団生活から回復への道がくるだろうか』と思った。

三日間は、あっという間に過ぎ、家のことを忘れられ、命の洗濯の旅でした。

この旅の計画をお世話してくださった皆様に心より感謝しております。

Y・M



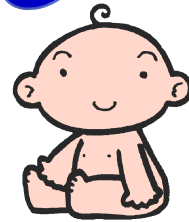
おめでとうございます！

1月3日 (2620g)

[G A I A]スタッフの
鈴木さんご夫婦に女の子が
生まれました。

わたし
鈴木まりんで〜す

G A I A



G A I A

家族による体験談

今まで、ディケアメンバーの体験談が行われていた、毎月第3土曜日の午後1時30分からのSSのプログラムは、今年から「家族による家族のための体験談」に変わりました。 1月18日(土)

参加された方に、感想を聞かせていただきました。

希望と勇気

今年、第二回目の「家族による家族のための体験談」があった。大変な修羅場だったのではと思われるような経験を、落ち着いて淡々と率直に語られる姿に、家族の回復がはつきり見え、これがあるって本人も回復に繋がったのだろうと私なりに確信した。

特に印象深かったのは息子さんの事件が自分を変えるきっかけに、そして楽に生きていける機会を与えてくれたと、好意的に受け止めておられることであった。紆余曲折を経ながらもセルフ・サポート研究所やNAでの学びや、気付きを活かしながら、その時その時の状況に自分の気持ちに正直に、しかも逃げずに母親として対応されてきたように思う。長い間本人との同居を拒否してきたが、7ヶ月に及び入院中の彼との頻繁な会話を通して彼を受け入れてみよう

という気になり、同居が始まったこと、彼もアライフ等を経て変わったと思われるが、母親も変わったこと、お互いにお互いが受け入れられるようになったことが、回復へ繋がっていったのだと思う。

良いチャンスを買えた時に、そのチャンス逃がさないようにという言葉を中心に、私も与えられる様々な機会を無駄にせず、自分を変えるチャンスと受け止め自分を変えていきたいと、もう一度あらためて思い直した。

質疑応答後、本人も登場し親子が並んで座り、話しをする様子に二人の間に緊張感が感じられず、むしろ信頼感が感じられ、私もいつかあんな親子関係になれるかもしれない、という希望が生まれてきた。

希望と勇気を与えてくれたお二人に感謝している。 Y・A



情報コーナー

SSのプログラム・自主グループの一部、
内容が新しくなっています。
ご紹介します。

教育プログラム

④ ・ ⑨

- ④ 薬物依存症者の心理
- ⑨ 中間施設と自助グループ

上記の講座は、アライブのメンバーと家族で、合同のプログラムになります。

※ 2月27日(木)が、④ になっています。

ミント

第1. 第3 水曜日
午後6:30~8:00

毎回、アライブのメンバーによる体験談

毎月、第1と第3水曜日、時間帯は今までと同じです。

※ 2月5日、2月19日(水)

第3土

午後1:30~4:00

家族による家族のための体験談

SSプログラム 毎月、第3土曜日
この時間に語りつくせない程の、様々な体験と貴重なお話を聞かせていただけるチャンスです。

※ 2月15日(土)

